

Message/ メッセージ

いのちって 何？
死ぬって どういうこと？
本当の ともだちって 何？

「ねこはしる」には
誰もが いつかは必ず出会う
生きる「課題」が散りばめられています

カンギキ(観劇)は 知識だけでは解けない
それらの課題に 観客の皆さんが 楽しみながら
想像力を駆使し とともに 感じ考え挑戦する ライブな体験！
そのとき 客席は客席でありながら
共感あふれる ライブな「現場」となります

カンギキ(感激=観劇)を 生きる力に！
…それが 私たちの願いです

Story/ ものがたり

雪国の 山あいの小さな村
内気でのろまな 黒ネコのランは
ひとりぼっちの魚と 友だちになりました

春から夏へ 夏から秋へ
めくるめく季節を 魚とすごし
ランは 黒くつやつやの若者に になりました

ところがついに 他のネコたちが 魚を見つけ
満月の夜に「魚とり競争」が
行われることになりました

満月が 明日に迫り
ランと魚は 語り合います



Imagination & Communication イマジネーション & コミュニケーション

その1 オノマトペ

ミ〜〜ンミ〜〜ン！

リ〜〜ンリ〜〜ン！

ズン・ダダダダダ〜〜ッ！

「ねこはしる」にはリズムカルでイメージ豊かに情景や気持ちを伝えるオノマトペ(擬音・擬態語)がいっぱい。詩的に音楽的に、イメージを共有する「ことば」の楽しさを味わってみてください。

その2 音と音楽

「ねこはしる」にはさまざまな楽器が登場。
透明な音色のオカリナ。ギターとウクレレの仲間、ギタレレ。
そして、絹糸と紙コップの糸電話のような創作楽器、ストリングラフィ。
メロディや和音、風の音、蛙の鳴き声などの効果音、イメージ音や
リズムを奏でます。三人の俳優たちの「こえ」も「からだ」も楽器。
役柄や感情をのせて響きあいます

その3 ことば

俳優たちは原作で「書きことば」として書かれた全てのことばを、
「今ここで、あなたに伝えたい！」という思いをこめ、
「話しことば」として語りかけます。そして、その時応えてくれるのが、
観客の皆さんのイマジネーションパワー。
客席では、届いた「ことば」を受けとめ、自分の記憶として、感情として、
心を揺らせてくれるのです。
このライブな「ことば」のコミュニケーションこそ、
「ねこはしる」の舞台の一番の魅力と言えるかもしれません。

Stage/ 舞台

●会場

基本的に平土間(舞台と段差のない空間)で上演します。
広さの目安は「縦15mx横10mx高さ3m」以上です。
※客席づくりなどは、劇団担当者が具体的な打合せをさせていただきます。

●上演時間

1時間(休憩なし) 上演の他に…
仕込みの時間約3時間十片付けの時間約1時間 合計約5時間

●上演時期

通年

●最大観客数

平土間:250名くらい



Staff/ スタッフ

原 作 © 工藤直子

構成演出 © 西田豊子

音 楽 © 佐藤容子

振 付 © 神崎由布子

美 術 © 西山三郎

宣伝美術 © 碓井斉子

ストリングラフィ指導・協力 © 水嶋一江 / スタジオ・イヴ

